

## 1. 本校の情報授業について

本校は昼間単位制Ⅰ部とⅡ部の定時制課程の高校である。普通科Ⅰ部（午前中心）・Ⅱ部（午後中心）、総合福祉科（午前中心）がある。普通科と総合福祉科の1年次生が「社会と情報」2単位を履修している。

授業は週に1度、2校時続き（45分×2＝90分）で行っている。授業形態は教師2名のTTで、クラスは普通科Ⅰ部、普通科Ⅱ部・総合福祉科に分かれて行っている。今年度の教科「情報」1講座あたりの生徒数は15名である。

教科「商業」の選択科目もあるため、「情報」と内容が被らないようにしている。具体的には、「情報」では情報機器を扱う上での注意点、情報に関わる法律などの情報モラルを中心に学ぶ内容とし、「商業」はワードやエクセルなどのスキルを学ぶ内容となっている。

## 2. プレゼンテーションを取り上げた理由

本校の生徒の様子を見ていると、休み時間はすぐに携帯電話を取り出して静かに操作していたり（※本校は携帯電話の持込みを認めている）、LINEやTwitter、TwitCasting等を利用して友達との会話を行っていたりするなど、携帯電話（スマートフォン）を手放せない様子が見受けられた。

確かに、LINEやTwitterなどはリアルタイムで相手に伝えることができたり、LINEではグループを作ってその中で話をしたりと便利な機能がある。しかし、同室内にいる友達と携帯電話上で会話をしたり、「うん、いいね、了解」などの短い会話文であったり、グループに入っていない生徒が孤立していたりと問題点もある。

そこで、「情報」の中でも、生徒間の言葉によるコミュニケーション、将来に向けて人前で話す力・表現力、伝える力を身に付けるためにプレゼンテーションを活用したいと考えた。

## 3. 演習を行うまで

### Ⅰ. 生徒の能力調査

年度初めに、PowerPointを用いて自己紹介を行った。

※取り組み上の注意点

作成には2校時、発表に1校時という時間の約束を守って行う。

スライドの数を5枚以上作成するように指示し、これ以上の制限は特に設けない。

友達の発表が終わってから良かったところを記入し、発表者にまとめたものを伝える。（評価）

結果

- ・PowerPointを使用したことのある生徒は1つの授業あたり、5名程度であった。
- ・スキルのある生徒は、文字の大きさやフォント、スタイルを変えたり、スライドの背景を変えてみたり、アニメーションを付けたりしていた。しかし一方で、「っ、ゃ、ゝ、°」や自分の名前のローマ字入力が分からない生徒もいた。
- ・著作権を知らずに、インターネット上の画像を利用している生徒がいた。
- ・教師から「～についての話は？～についてはどう？」と言われないと話すことのできない生徒、自信がなく声の小さい生徒、言語表現が乏しい生徒が多く見受けられた。

⇒生徒の能力差はとても大きい。

## II. 著作権について

自己紹介を受けて、著作権の事例を挙げて侵害しているかどうかを考える。

### ※取り組み上の注意点

自己紹介の時に実際にあった事例（ex.インターネット上の画像の使用）や生徒がしてしまいそうな事例（ex.TVで放送された映画をDVDに録画して友達に渡す）を取り挙げ、権利の表を見ながら生徒が個々に侵害しているかどうかを考えられようにする。全員で答え合わせを行い、共通理解できるようにする。

### 結果

- ・著作権という言葉を知っていても、どのようなことがダメなのかを知っている生徒はほとんどいなかった。
  - ・生徒にとって身近な事例であったためか、興味を持つ生徒が多かった。授業以外の場面でも、SNS上のプロフィール画像について著作権の侵害になるのかと聞いてくる生徒がいた。
- ⇒知らずに著作権を侵害していたことがある生徒がいた。

## III. わかりやすい表現

自己紹介を受けて、配色や文字の大きさなどについて考える。

### ※取り組み上の注意点

悪い例の広告を作成して、提示する。

どこが悪くて、どのように改善すればよいかを生徒たちから意見を聞く。

### 結果

- ・悪い例の広告に対して生徒は「なんか変、おかしい」などと反応し、改善すればよいと思われるところに気付く生徒が多く、積極的に意見を言う生徒が多かった。
- ⇒全体的に表現の工夫について理解していた。

## IV. プレゼンテーションについて

プレゼンテーションを行うまでの構成、話し方を学ぶ。

### ※取り組み上の注意点

インターネットを使って良いプレゼンテーションを探し、見つかったものを紹介させた。

### 結果

- ・プレゼンテーションとはどのようなものなのかを知らない生徒がほとんどであった。
- ・教師から紹介したプレゼンテーション（Youtube,TED）の映像に興味を持って見ていた。
- ・映像を見ることでプレゼンテーションのイメージを捉え、東京オリンピックのプレゼンテーションを探し出す生徒が多かった。しかし、予め約束を決めておかないとインターネットを使用して、趣味のページを観たりすることがあった。

⇒プレゼンテーションについて、重要視するポイントがいまいち分からない。

## 4. 演習

情報セキュリティの分野において、簡単な暗号をグループで作りと、発表する。

### I. 目標

生徒全員が問題を捉えて考え、グループの中で協力しながら課題に取り組むことができる。  
一人一人が役割を持って発表することができる。

### II. 取り組み上の注意点

- これまでの授業では教師と生徒との受け答えであったため、生徒同士で話し合いができるように、グループを作る。
- グループに分ける際に、生徒のスキル、人間関係、出席状況等を考慮し教師側で決めた。(1グループ3、4名)
- 生徒のスキルに大きなバラつきがあるため、全員が考えられるように暗号化に使用してよいものを限定して取り組めるようにした。
- 平文は平仮名3文字の単語とし、暗号化する際に複雑になり過ぎないように小文字を含まないものを提示する。
- スライドの作成、発表はそれぞれ担当を決めて全員が携わるようにする。
- 暗号を提示するのではなく、出題して聞いている生徒がグループのメンバーと解読にチャレンジできるようにすることで、グループ内の関わりだけでなく、他のグループとの関わりを持てるようにする。
- 発表する期日を決めて、時間を守ることを意識させる。

### III. 取り組み内容 (流れ)

- ①暗号についての学習 (暗号化の仕組み、暗号文の問題など)
- ②グループを作る
- ③教師から各グループに平文を与える
- ④グループで暗号を考える  
使ってよいもの
  - 「A～Z」までの大文字アルファベット
  - 2桁までの数字※「0～9」までの数字は「00、01、02、03、・・・、08、09」と表す
- ⑤スライドの作成  
必要なスライド
  - グループ名とメンバーの書かれたスライド
  - 暗号文のスライド
  - 解答のスライド
  - 暗号作成のポイント+  $\alpha$  のスライド
  - 暗号解読ヒントのスライド
- ⑥発表  
グループ名発表、出題、各グループの解答、解説、まとめ、評価記入
- ⑦総評

## 5. まとめ

プレゼンテーションに取り組む上で、本校の1年次の生徒の様子から、発表をするときの声の強弱やジェスチャーよりも、まずはコミュニケーションをとる、発言力を伸ばすきっかけにしたいと考えた。そのために、グループを作ることで1つの目標に向かって意見をまとめていかなければいけない環境を作り、グループ内での役割を与えることで一人一役全員が参加できるようにした。また、生徒のスキルを踏まえた上で全員が理解できる提示内容を考え、グループ内の話し合いに参加できるようにした。グループの話し合いに教師も入るときもあったが、生徒同士で話し合いながら暗号文を作成する場面が多く見られたことがよかった。

しかし、今回の取り組みは生徒間の関わりを主にしていたため、プレゼンテーションとしてはまだまだだと感じた。プレゼンテーションを取り挙げて取り組むにあたって、その中には様々な要素（プレゼンテーションをするまでの計画、スライドの表現方法、著作権、発表する際の表現の工夫や態度など）が含まれており、今後もねらいを明確にしながら適切に活用していきたいと思う。また、今回のグループ学習では生徒同士が話しやすいように教師がグループを決めたが、これからはグループを入れ替えても話すことができるようになっていけたらと考えている。

将来、生徒たちが企業に就職する際には面接があり、自己PRが試される。そのときに、プレゼンテーションの授業の中で学んだ内容を活かすことができるように指導していけたらと考えている。